

名前：ソム チェンだ

失敗から学んだこと

みなさん、子どもの時に夢がありましたか？きっと、みんなそれぞれ夢があったと思います。私は 子どもの時、たくさん夢がありました。たとえば、医者になりたかったり、銀行員になりたかったり、それに宇宙飛行士にもなりたかったです。子どもの私は、大人になれば、何でもできると思っています。たくさん勉強して、仕事をして、お金を稼いで、立派な大人になれると信じしていました。

でも、16歳になったとき、それらの夢がなくなりました。自分にはその夢をかなえる力がないと気がついたからです。それから、「高校を卒業したら、どうすればいいだろう？」とずっと考えていました。高校卒業試験の結果が出たあと、教育省から 日本語学科の4年間の奨学金をもらうことになりました。でも それだけでは十分ではないと思って、すぐにその奨学金を受け取らず、別の専攻を探そうと思いました。その時、いい大学を探して、ほかの奨学金を申し込みました。でも、社会の経験が少なく、話すのが苦手だったので、たくさんインタビューで失敗しました。どんなにがんばっても、何でもできないと思いました。

でも、諦めたいと思っても、人生はここに終わるわけではないと気づきました。できることは前に進んで、自分の人生を後悔のないように導く新しい道を見つけることだけです。

その時、私は教育省からの日本語の奨学金を受けることにしました。それを決めてよかったと思います。まだ1年しかたっていませんが、たくさんのことをしました。たとえば、日本人の学生と交流に参加したり、日本の文化イベントでボランティアをしたりしました。それだけでなく、ボランティアの機会をまた探し始めて、最終的に若者が自分の可能性を見つけ、社会に貢献するのをたすける団体のメンバーになりました。

私がした選択や決めた道は、今の私を作りました。夢の学校で勉強することができませんでした。今は一番好きな日本語を勉強しています。私の学科では、素晴らしい人たちに出会い、たくさんの思い出を作りました。奨学金の面接での失敗は、私に大切なことを教えてくれました。そして、新しいチャンスもくれました。

今、私は新しい夢と目標があります。それをかなえるために、これからも頑張ります。失敗は終わりで環なく、成長するために必要だとわかりました。「まちがった電車に乗ったら、新しい電車に乗りかえればいい」とおもいます。みなさん、失敗をこわがらないでください。失敗も成功も、私たちの人生に大切な経験になります。